

## 平成 29 年度 学位記授与式 学長告辞

本日ここに、関係者の皆様方のご臨席の元、めでたく平成29年度星槎大学学位記授与式を挙げるにあたり、学位取得者の皆様、並びにご家族ご関係者の皆様方に対し、心からお慶びを申し上げます。

また公私ともに大変ご多用の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方、心より感謝申し上げます。

本年度星槎大学での学修を修了し、学位を取得された皆様は、共生科学部80名、大学院教育学研究科修士課程31名、大学院教育実践研究科専門職学位課程9名、計120名です。

まずは学位取得者の皆様、本日は実におめでとうございます。お仕事ご家庭のことなどさまざまな困難がお有りの中、ご関係者のご理解と応援を力に変えて、本日めでたく学位記をお受け取りになりました。学位取得者の平均年齢は、共生科学部36.7歳、教育学研究科46.9歳、教育実践研究科34.1歳です。その価値はその困難に応じ、より一層の輝きを増していると私は考えます。

星槎大学は、共に生きることを科学する共生科学部とその礎の元に研究科を二つ擁しています。教育学研究科は通信による学修を中心におき、さらにコースとして看護教育研究科を設置、来年度からはメディア・ジャーナリズム研究科をスタートいたします。教育実践研究科は日本で唯一の、いわゆる幼少中高の一条校に限定しない教育分野の専門職大学院です。

学位記授与式は、ある意味で星槎大学としての最終講義であるとも言えます。もちろん引き続き特別科目等履修生として、せっかくの学びを継続していくという方も多いことは存じ上げていますが、それでもなお、ここで課程修了にあたり、一つの区切りとして星槎の歴史を振り返っておくことは有効であると考えます。

星槎は、1972年3月21日に創設者の宮澤保夫先生が小さな塾の看板を掲げたことから始まります。最初は二人の生徒から始まりました。私もその塾の卒業生です。そしてこどもたちの声を聞きながら、必要性に応じてその学びの場を広げてまいりました。今ではさまざまな形で星槎に参加をして学ばれている方の数は本年度で約3万5千人にまで広がっています。

現在では20以上の法人を擁しながら星槎が教育の部分で追求して来ているものは何かといえば、それはひとりひとりが持つ基本的人権の一つ、学習権の担保

です。学習権の担保、それは教育という視点ではなく、学習という視点で十分に満たされずにいる人たちのために、私たちができることから前例がなくとも一つ一つを実現していくという行動のことを表します。

その行動にはいくつもキーワードがあります。学校不適合、登校拒否、不登校、学習障害、発達障害、スポーツ、途上国、そして生涯学習です。これらに共通するのは学びたいという想いがありながら、学ぶ環境に手が届かないということです。この課題に対して星槎は法律を遵守し、しかしそれに限定されずに法律を最大限に解釈し、既存の枠では実現できなかった教育的環境を用意してきたと自負しています。

そしてそのような学習権を十分に履行する状況にない方々にその道を開きながら、星槎の理念を共有していくということが星槎の活動の中心にあるものです。これは実はあまり知られていないのですが、公立の学校と私立の学校の一番の違いは、私立学校を設立するには創設者は自らの財産を寄附することで設置が認められるということです。ですから私学には創設者が社会に訴えたい強い動機、すなわち想いが存在するということです。その想いというのは、これを建学の精神と言ったり理念と言ったりします。ですから星槎の一番の目的は星槎の理念を社会に広く訴え、一人でも多くの人々と共有することです。

星槎の理念の中心にあるもの、それは星槎の三つの約束です。

「人を排除しない 人を認める 仲間を作る」

これは保育園、幼稚園の園児でも口にできるように簡易な言葉で書いてありますが、実践することは大変に難しいものです。個人の関係においても、国と国の関係においてもなかなかできておりません。夢物語だという方もいるでしょう。でもそれでも私たちはこれを広く世界に訴えていく必要があると強く考えています。

この意味でも星槎の理念を学び、その結果星槎大学の学位を修得された皆様は大変に素晴らしく尊い存在でもあるのです。

社会の情勢に目を向ければ、超高齢社会に突入した日本はこれから人口減少に代表される経験をしたことのない時代に突入していきます。毎年山梨県一つに相当する人口が消えていく社会において、今までのような成長を基軸に経済が成り立っていくことは難しい時代になっていきます。

一方、国外に目を向けても大国や地域が帝国化し資源の確保合戦に突入したり、国民国家を超えた集合体が国際社会に大きな力を持つようになってきています。資本主義を形成するための二つの根拠、すなわち「無限の天然資源」そして、「蓄財する中心と収奪される周辺」が失われた今日の世界で人類はまだ資本主

義という長く人類を引っ張ってきた主義の次の方針を見いだせていない、そんな雰囲気があります。

この小さな地球に 90 億人も人類が同居することになった時に、今のような収奪合戦をしてもいずれ限界が訪れます。その時に私たちは共に生きる、お互いの得意不得意を補い合うという思想は非常に重要なものであると考えます。人類の存続は各々の存在意義を認め、分かち合う強さ、共に生きる強さを持つことができるかどうかにかかっています。

星槎グループはこの観点からも公益財団法人世界こども財団を通じて活動を行っています。ブータン、エリトリアとは 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプを本学箱根仙石原キャンパスでお迎えすることになっています。民間で誘致をしているのは星槎だけです。しかしこの誘致は星槎の活動の一部にすぎません。両国の若い有望なアスリートを星槎グループの学校に留学生として迎え入れ、競技力の向上については日本オリンピック委員会傘下の各競技団体がサポートするというプログラムを実施しています。この活動に国際オリンピック委員会 IOC が着目してくれて、2020 東京オリンピック IOC 特別プログラムが作られました。星槎のプログラムの一部を IOC がファンディングするプログラムです。このプログラムは東京オリンピックの後も 2024 のパリ大会においてはフランスが、2028 のロサンゼルス大会においてはアメリカがそれぞれホスト国となり、オリンピック開催国が途上国のアスリートを留学生として受け入れ、その国の若者と共に育ち、夢を実現していくという世界を駆け巡るプログラムとなります。

また、ブータンやエリトリアはこれまでパラリンピックに出場したことがありませんが、東京大会に初めて参加しますので、星槎では支援を行うこととしています。ブータンにおいてはパラリンピック委員会の創設についてもサポートをして、初の障害者スポーツがスタートしています。

社会は変えることができます。

星槎は共感理解を大切にしています。一度星槎の高校生と話したことがあり、共感という言葉があります。こどもたちに話したのは他人の気持ちをわかろうと言ったってそれは無理だよねということです。私の気持ちを誰かがわかるよと言ってくれたって本当にわかるわけではないと感じるよねと。だからそれは無理だと。

でも私たちにもできることがある。それはあの人の気持ちは私にはわからないけれど、もし私があの人立場だったらどのように感じるかは誰だってすることができる。どう考えるか、それは私たちに与えられた究極の自由だと。そしてどうなったら嬉しいかを考えることもできる。ならば、その行動をとろうと。

ある生徒がこう言ってくれました。私は苦しくてしょうがなかった。他人の気持ちを分かれと言われてどうしても無理だと苦しかったが、今日の話聞いてずっと気持ちが楽になった。自分ならどう感じるか、これなら私でもできる。そしてその人が笑顔になるにはということを考え、行動に移していきたい。

星槎の建学の精神は「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」です。何が社会に必要なのかを私たちの視点である意味勝手に考え、それを作り上げる、これが「社会に必要とされることを創造し」です。そして既存のルールに縛られずに必要とされることをなす、そのためには法律の解釈を最大限に広げていく必要もある。これは「常に新たな道を切り開き」です。そして社会的な必要性が全うされるまでその事業を展開し続ける、状況に合わせて変化をし続けるこれが「それを成し遂げる」です。

社会を変える。

考えてみれば全ての仕事は社会を変えるために存在します。そして誰かの笑顔のために存在しています。そんな当たり前のことを見失いそうになっているこの現代社会において、私たちはここ星槎に集い、共に学びました。

私たちはみんな違っています。だからこそ、社会には奥行きが生まれ、得意不得意をお互いに補い合うことができます。

この式場にいる私たちもみんな違っています。しかし同時に、私たち全員に例外なく共通していることがあります。

一つはどの命もその誕生に二つの命を必要とすることです。その二つの命は四つの命を必要とします。これに例外はありません。その繋がりには過去を何万年、何十万年、何百万年と遡ります。そして一度も、決して一度も途切れずに今のあなたにつながっています。だからあなたは大切な存在なのです。同時にあなたが出会う全ての命は大切な存在なのです。

そして同じ時代を生きているということ。長い長い命のつながりの中で、たまたま同じ時代を選んで生きているのも例外なく共通しています。

そしてここ星槎を選び、ここに集い、ともに学んだということ。

この例外なき、偶然を共に祝いましょう。そして私たちは共に生きることを学び、実践する仲間であることを確認しましょう。全ての仕事は誰かの笑顔につ

ながってこそ、意味がある。そのことを実践し、周りの大切な人たちに伝えていきましょう。

社会を変える。

これこそが学位記授与式における星槎から皆さんへのメッセージです。星槎の46年の中で学ばれた方の数は51万人を超えます。日本の人口の約0.4%です。ぜひ繋がってください。  
本日は実におめでとうございます。

平成30年3月17日

星槎大学 学長 井上 一